武蔵小杉　カギは住民の力

住民が浸水を食い止めた北側のエントランス付近＝パークシティ武蔵小杉ステーションフォレストタワー管理組合提供（一部修整しています）

▲台風19号当時を語る、左から被災したマンションの管理組合理事長の海老澤健太郎さん、隣のマンションの管理組合法人代表理事の志村仁さん、NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント事務局長の塚本りりさん●川崎市中原区、武蔵小杉駅周辺に立ち並ぶタワーマンション＝いずれも中井征勝撮影

写真は朝日新聞 5 月 22 日夕刊「現場へ！」。川崎市武蔵小杉駅近くのタワ―マンションについてレポートしてきたが、住民の動きが伝えられているので抜粋して紹介したい。

巨大な台風 19 号が上陸した昨年 10 月 12 日。川崎市中原区の武蔵小杉駅近くに立つタワ―マンション、パークシティ武蔵小杉ステーションフォレストタワーが、水害に襲われた。地上 47 階建てで 643 世帯、約 1500 人が住む。

豪雨で周囲の道路が冠水。浸水から 1 階の入り口を守ろうと、住民 100 人以上が土嚢を積み、なんとか防いだ時だった。

午後 11 時ごろ「地下 3 階で浸水している」と連絡があった。駆けつけた 1 人は「状況に唖然とした」と災害後に記している。

電気室・機械室のある地下 3 階に、さらにその下にある貯水槽から水が上がってくる。住民たちは手作業で別の地下水槽に流そうとした。だが水位の上昇は止まらない。感電の危険がある。やむなく中止し、見守るしかなかった。

午前 2 時ごろ全館停電。電気設備が水没し、エレベーターが動かない。館内は真っ暗。水が出なくなり、トイレも流せなくなった。

翌朝午前 7 時、管理組合は災害対策本部を立ち上げた。管理会社、電力会社、建築会社などが賭けつけ、建物を報道陣が囲んだ。

この「水害」は各地のマンション住民に衝撃を与えた。多くは同じように地下や 1 階に電気設備がある。今回はあそこに被害が出たが、次はうちかもしれない…。

人気エリアだけに、ネットやメディアを通して不正確な情報やデマが広まった。

今回の水害が教えてくれるのは地域の力、住民の力の大切さだ。地域のマンション住民が参加する NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメント。事務局長の塚本りりさんは支援を求められ、近隣のマンションに呼びかけた。すると何人もが「うちに階段車がある」、「ポータブル電源がある、すぐ行く」と動き出した。「日頃のマンション同士の横のつながりが、災害時には大事ですね」と振り返る。

被災したマンションの向かいのマンション。管理組合法人の代表理事で地域にも関わる志村仁さんは、こう語る。「12 棟あり、住民は全部で約 2 万 5 千人。いわば一つの町です。うちは、よそで避難民が出たら受け入れる態勢です」被災したマンションでは、住民が専門組織を作って原因究明と今後の対策に乗り出した。設計や法律、保険に詳しい人もいる。「災後」こそ、住民の知恵と力が求められるに違いない。

（2020 年 5 月 27 日）